

堺

いわつたじんじゃ 石津太神社

石津太神社は、石津川の河口付近紀州街道に面して鎮座している。境内の御由緒書によると「孝昭天皇5年（日本書紀によると紀元前475年頃）に創建せられ…延喜式内社にして、我が国最古の戎社と称せられる」とされているが、同区内の石津神社（いしづじんじゃ）も八重事代主神（戎神）降臨の地として、「日本最古の戎宮」を称している。「延喜式」では「石津太神社一式」とあり、いずれかの神社が「本殿」、もう一方が「旅所」と考えられているが、両神社が論社として定まっていない。

社伝では、当神社の祭神のひとりである蛭児神（ひるこのかみ・戎神）が舟で漂着し五色の神石を埋めた場所（石津の地名の由来）とされているが、毎年12月14日に行なわれる火祭（焼いた薪の上を歩く火渡神事で泉州の奇祭）は凍死寸前



拝殿（右手が北拝殿、左手は南拝殿）



南本殿（春日造）



北本殿（流造）

所在地：堺市浜寺石津町中 4-12-7
最寄駅：阪堺線石津駅より北西徒歩5分
見学：境内は自由
TEL：072-241-5640

で漂着した蛭児命を浜の漁師が百八のわら束を積み、火を付けて命の身体を暖めて助けた故事より八束、百束がなまり、現在の「ヤッサイ・ホッサイ祭」と呼ばれるようになった。

平安時代以降、朝廷の御幸を幾度も受け、境内は八町四方を有したとされ、社殿は壮観さを呈していたとされている。豊臣秀吉が大阪城築城に際しては、裏鬼鎮守神として崇敬され、木村重成は社殿復興のために黄金金若干を寄進したと伝えられている。現在の神社は、本殿、拝殿、鳥居からなり、江戸時代の神社境内の構成が今も残っており、本殿は北本殿（流造）と南本殿（春日造）に2つに分かれ、屋根の形が違っているが、破風などの装飾により正面から見た姿を同じとしたことは、意匠的に面白く興味深く感じられる。（桑原宏明）